

東洋学論叢

慧可傳の再検討

伊吹 敦 (1)

「あたかも力ある人が曲げた臂を伸ばすか、

伸ばした臂を曲げるように」

岩井 昌悟 (68)

— 神變のイメージの變遷を追う —

『ゴラクナート語録』研究

橋本 泰元 (132)

— 「サブディー」(四二—一〇〇)の本文と和訳—

カトマンドウ盆地のナーマサンギーティ文殊について

山口しのぶ (148)

東洋大学文学部紀要第61集

インド哲学科篇

XXXIII

研究室報告

① 本年度より、専任教員として、山口しのぶ氏（教授）と岩井昌悟氏（講師）を迎えた。山口氏は、平成十七年度に退任された川崎信定教授の後を襲って「チベットの文献講読」、「インド・仏教図像学」、「宗教学Ⅱ」などの授業を、岩井氏は平成十八年度に退任された森章司教授の後任として「パトリ文献講読」、「インド仏教史」、「仏教古典哲学」などの授業を担当された。

② 本年度の新生活歓迎行事として、「日帰り研修旅行」を行った。曹洞宗天祐山公田院仁叟寺の御協力を得て、御住職渡辺啓司師から直接御指導頂きながら禅堂において坐禅を実習し、その後、岡部央先生（群馬県立文書館主任専門員）から御講演を頂戴するという機会を持つことができた。新入生には大いに好評で、学生相互あるいは教員との交流を深めることができた。関係各位には厚く御礼申し上げます。

③ 本年度は「東洋大学文学部伝統文化講座」の催しとして、真言宗豊山派迦陵頻伽聲明研究会の皆様の御協力を頂き、六月二日に眞言聲明「弘法大師空海 御影供」の公演を、また、平成十九年は日印文化協定締結五十周年に当たり、インド大使館の御後援を頂いて、十一月十七日に「東洋大学インド祭」を開催した。両公演ともに大勢の来場者で賑わった。出演者

の皆様には厚く御礼申し上げます。

④ 本年度は、左記の三人の外国の諸先生から特別講義を拝聴した。

ハンス・バックナー教授（オランダ・フローニンゲン大学）、「ヴァーラーナサイー・『スカンダ・プラーナ』・トゥルスイーダース」、六月二十三日（主催：東洋大学東洋学研究所プロジェクト）「東洋における聖地信仰の研究」（研究代表者：宮本久義）

C・ウイレメン博士（ベルギー王立科学海外アカデミー、国立仏教大学・副学長「タイ国」）、「一心六足のアビダルマ」、十一月八日（主催：大学院仏教学専攻）

ウニーター・サッチッターナンド先生（デリー大学文学部准教授）、「インドにおける日本文化」、十一月二十九日（主催：インド哲学科）

⑤ 本年度も大学院の研究発表会を前期（七月十八日）と後期（十一月二十八日）に開催した。前期の発表者は、仙仁晶（M2）、チャイトンディー・プラチャッポン（M2）、貴貫智裕（M2）、スフグジルド（M2）、中村正雄（M2）、馬場えつこ（D2）、林香奈（D3）の七名、後期の発表者は、橋爪浩昭（M1）、板野義弘（M1）、三澤祐嗣（M2）、鈴木貫太（D1）、櫻井宣明（D2）の五名であった。

⑥ 本年度のティーチングアシスタントは、三澤祐嗣君、鈴木貫太君、馬場えつこさん、林香奈さんが担当した。

⑦ 本年度の卒業論文・制作の提出者は、Ⅰ部が五十六名、Ⅱ部が十三名であり、大学院の修士論文提出者は五名であった。本年度の優秀論文に対する褒賞は左記の通りである。

・校友会奨学基金

学 部 山本一誠（Ⅰ部）、狩野雄太（Ⅱ部）

大学院 チャイトンディー・プラチャツポン

・勸学奨学基金

学 部 下重康子（Ⅰ部）、柴原美咲（Ⅱ部）

・田村芳朗奨学基金

学 部 渡邊直子（Ⅰ部）、狩野久枝（Ⅱ部）

大学院 中村正雄

平成十九年度業績（平成十九年一月～十二月）

竹村牧男

〈著書〉

『正法眼蔵講義 仏性 上』（単著、大法輪閣、平成十九年二月十日、三三三頁）

『正法眼蔵講義 仏性 下』（単著、大法輪閣、平成十九年三月十日、二六二頁）

〈論文〉

「信心の業識」について（単著、「東洋学論叢」第三十二号（東洋大学文学部紀要）第六〇集、平成十九年三月三十日、三五～六五頁）

「宗教における「信」の諸相——仏教の視座から」（単著、『比較思想研究』第三十三号（比較思想学会）、平成十九年三月、五～二二頁）

「サステイナビリティと共生」（単著、小宮山宏編『サステイナビリティ学への挑戦』、岩波科学ライブラリー二三七、岩波書店、平成十九年十一月、二二～二四頁）

〈その他〉

「共生学の構想——共生という課題と仏教思想の可能性について」（単著、『共生思想研究センター年報』二〇〇六、平成十九年三月、三～二七頁）

「共生」のルーツを尋ね——仏教と「共生」を考える」（単著、

東洋大学特別研究・特定課題〈共生学〉の構築）（二〇〇四～二〇〇六年度）報告書、平成十九年三月、三～二七頁）

「エコロジーとエコ・フィロソフィ」（単著、『エコ・フィロソフィ研究』第一号、東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ「TIEPI」、平成十九年三月、一三～二六頁）

「西田幾多郎と鈴木大拙——その宗教哲学の世界」（単著、『西田幾多郎全集』第二十二卷（第二十一回配本）「月報」二十一、平成十九年六月、二～二二頁）

シリーズ往復書簡「生命への問い——仏教と科学との接点を求めて」Ⅰ（単著、『春秋』八・九月合併号、Ⅱ、十一月号）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（理事）／日本宗教学会（理事）／比較思想学会（理事）／仏教思想学会（理事）／東方学会（会員）研究発表

The Eco-Philosophy from the Viewpoint of Japanese Buddhism (TIGS/ICAS 主催) の International Symposium on Dialogue between Social and Natural Sciences における Exploring Possibilities in Eco-Philosophy I: Buddhism and Eco-Philosophy のセッションにおいて、平成十九年二月二十八日、ハワイ・ホノルル、Princess Kaiulani Hotel)

「救済と社会活動——遷相の問題をめぐって」（国際真宗学会

International Association of Shin Buddhist Studies, IASBS 第三回
学術大会、平成十九年八月三～五日「発表は三日」、カルガリ
ー大学)

「仏教とは何かー大乘仏教の真理性について」(土井道子記念
京都哲学基金主催 平成十九年度シンポジウム「仏教とは何
か」、平成十九年九月三～五日「発表は四日午後」、京都ガー
デンパレス)

「日本思想の自然観と倫理」(東洋大学「エコ・フィロソフィ」
学際研究イニシアティブ「TEPh」主催、サステイナビリティ
イ学連携研究機構「R3S」共催、国際シンポジウム「今、地
球を維持する哲学とは?ーエコ・フィロソフィを求めて」の
パネルディスカッション「東西の自然観から倫理へー地球社
会の未来を見ずえて」において発表と討論に参加、平成十九
年十月十三日、東洋大学白山キャンパス井上円了ホール)
"On the Logical Structure of Enlightenment and Self-being"

(International Conference on "Mystical Experience:
Communication between God and Man"「密契経験：人ー神的
溝通」国際学術研討会「November 2～3, 2007, The Arens
Theatre and Conference center, Fu Jen Catholic University」)

「自然の聖性と自己の問題」(東洋大学「エコ・フィロソフィ」
学際研究イニシアティブ「TEPh」・茨城大学地球変動適応科
学研究機関「CAS」共催、国際セミナー「持続可能な発展と
自然・人間ー西洋と東洋の対話から新しいエコ・フィロソフ

イを求めて」において、平成十九年十二月一日、東洋大学白
山キャンパス六号館、六三〇七番教室)

「共生思想の歩みと課題」(合同ワークショップ「共生」、平成
十九年十二月二十三日、東北公益文科大学、事務棟三階会議室)
〈講演〉

武蔵野大学現代と仏教研究会「共生について」(平成十九年一
月二十五日、武蔵野大学)

西田・田辺記念講演会「西田幾多郎の仏教ー真宗とのかかわ
りを中心に」(平成十九年六月二日、京都大学文学部新講義棟)
東京浅草ロータリークラブ例会「サステイナビリティ学と仏教
について」(平成十九年十月二十二日、浅草ビューホテル)

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ
(TEPh)・自然観探究ユニット代表者(機構長：松尾友矩「東
洋大学」)

東洋大学共生思想研究センター長

「東洋の知に基づく「共生」思想の研究」(平成十九年度科学
研究費「基盤研究(B)」、研究代表者)

〈教育活動〉

学内担当科目

学部：日本仏教史(Ⅰ部)

インド哲学仏教学演習⑦(Ⅰ部)

全学総合IA(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ)一回担当

「日本思想とエコ・フィロソフィ」(五月十日)
仏教と社会B (Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ) 一回担当

「日本仏教と社会規範」(十一月十日)

校友会寄附講座(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ) 一回担当

「東洋大学の現在―共生をめざして」(二月二十三日、二限)

大学院…日本仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅲ(前期課程)

仏教学特殊研究Ⅳ・仏教学研究指導Ⅲ(後期課程)

学外担当科目

上智大学文学部…仏教思想Ⅰ・Ⅱ

横浜国立大学国際総合科学研究科…比較思想論特講、集中講義、平成十九年八月二十七～二十九日

茨城大学農学研究科…緑環境システム科学特別講義Ⅰ、集中講義、平成十九年十二月十～十一日

〈大学・学部管理・運営活動〉

文学部長／評議員／東洋学研究所研究員

〈社会的活動〉

講座「『正法眼蔵』「現成公案」を読む」(東洋大学生涯学習センター公開講座・エクステンション学習講座B(東洋思想への誘い3)、平成十九年六月二十三日、東洋大学白山キャンパス)

世田谷市民大学講師「日本仏教の世界」(平成十九年度四～七月期、毎週木曜日十二回)

宮本久義

〈論文〉

「マツヤ・プラーナ」第一八三章・和訳と註解」(単著、「東洋学論叢」第三十二号)、「東洋大学文学部紀要」第六十集、平成十九年三月三十日、一三五～一五八頁)

「カーシー・ラハスヤ」に見られる聖地巡礼の作法」(単著、「東洋学研究」第四十四号、東洋大学東洋学研究所、平成十九年三月三十日、一一九～一三〇頁)

〈その他〉

「二〇〇パーセント信じ、一〇〇パーセント疑う」(単著、山崎

甲一ほかと共著『無限大の安吾(東洋大学公開講演)論文集』、菁柿堂、平成十九年八月二十九日、八七～九九頁)

「金倉圓照『インドの自然哲学』」(項目解説、島蘭進ほか編『宗教学文献事典』、弘文堂、平成十九年十二月十五日、一〇四頁)

「研究室探訪―東洋大学文学部インド哲学科宮本研究室の巻、千年のスパンでサステイナビリティを考える」(インタビュー、

『サステナ』二〇〇七年五月号、サステイナビリティ学連携研究機構、平成十九年十月二十日、五六～五九頁)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本南アジア学会(平成十九年十月より常務理事)／日本印度学仏教学会(評議員)／日本佛教学会(会員)／建築史学会(会員)／早稲田大学東洋哲学会(会員)

研究発表

南アジア学会第二十回全国大会参加)

"The Philosophy of Co-existence in the Classical Sanskrit Literature" (International Symposium on the Sustainability and the Philosophy of Co-existence. At Sri Lal Bahadur Shastri Sanskrit Vidyapeeta, Delhi, India. 平成十九年八月二十三日)

〈調査活動〉

「インドにおける宗教間対立と共生の実態調査」のためインド出張(平成十九年度科学研究費「基盤研究(C)」、研究代表者：竹村牧男「東洋大学」、研究分担者、平成十九年八月十二日～二十五日、デリー、ラクナウ、アヨーディアヤ、パナラス、マトウラー、ヴリンダーバン、アーグラにて調査)

「東北公益文科大学と東洋大学共生思想研究センター合同ワークショップ及び、出羽三山神社、善寶寺研修」(東洋大学共生思想研究センター、センター長：竹村牧男「東洋大学」、平成十九年十二月二十三日～二十四日、山形県酒田市)

〈研究プロジェクトへの参加〉

「東洋における聖地信仰の研究…ヒンドゥー教と仏教における聖地巡礼成立の要件」(平成十九年度東洋大学東洋学研究所学術プロジェクト、研究代表者としてインド思想・宗教における聖地信仰の研究とプロジェクト全体の統括に従事)

「多言語社会における文学の歴史的展開と現在—インド文学を事例として」(平成十九年度科学研究費「基盤研究(A)」、研究代表者：水野善文「東京外国語大学」、研究協力者、日本

〈教育活動〉

学内担当科目

学部：インド古典哲学A・B (I部)

インド現代思想A・B (II部)

インド文化論II A・B (I部)

インド哲学仏教学演習② (I部)

インド哲学仏教学演習① (II部)

全学総合IA (I・II部乗り入れ) 一回担当

「インド思想とエコ・フィロソフィ」(五月十七日)

仏教と社会A (I・II部乗り入れ) 一回担当

「ネオ・ブッディズムとヒンドゥー教」(五月十二日)

「東洋大学インド祭」(平成十九年十一月十七日開催に当たり支援)

大学院：サンスクリット文献研究I・インド哲学研究指導I

(前期課程)

インド哲学特殊研究I・インド哲学研究指導I(後

期課程)

学外担当科目

インド哲学仏教学特殊講義「インド思想史」(東京大学文学部、

通年)

総合講座「東洋医学の人間科学」中、「ヨーガとアーユルヴェーダ」を担当(早稲田大学人間科学部、平成十九年十月

十九日・二十六日)

〈社会的活動〉

講演「ヨーガ・ストラ」の修行階梯について(長野ヨーガ

協会、平成十九年六月三十日、長野市飯綱高原アゼリア飯綱)

講演「カーシー・ラハスヤ」中のパンチャクローシー巡礼をめぐって(宮城学院女子大学キリスト教文化研究所「共催、

日本南アジア学会東北支部」、平成十九年七月二十一日、宮

城学院女子大学)

講演「新仏教(ネオ・ブッティズム)と現代インド」(浅草寺・

第六二一回仏教文化講座、平成十九年八月二十七日、新宿明

治安田生命ホール)

講演「多様な顔を持つインド」(福岡県・デリー州友好提携記

念講演会、平成十九年九月三十日、九州国立博物館)

講演「『ヨーガ根本教典』を読む」(東洋大学生涯学習センター・

エクステンション学習講座B(東洋思想への誘い4)、平成

十九年十月十三日、東洋大学白山キャンパス)

講演「神と人を繋ぐ神劇ラームリーラー」(国際交流基金アジ

ア理解講座(インド・神話と芸能…神々を演じる人々)、平

成十九年十一月一日、港区赤坂、ジャパンファウンダーシ

ン国際会議場)

対談「異文化の壁をどうやって乗り越えるか」(ラージーヴ・

バンダーリー氏と。東洋大学インド祭、平成十九年十一月

十七日、東洋大学白山キャンパス、井上円了ホール)

講演「東洋思想への誘いーインド思想における輪廻と解脱」(千

葉県生涯大学校親睦学習会、平成十九年十二月十八日、千葉

市文化センター)

〈大学・学部管理・運営活動〉

インド哲学科第一部主任/東洋学研究所研究員・運営委員/東
洋大学共生思想研究センター運営委員

橋本泰元

〈論文〉

「ゴラクナート語録」研究―序(単著、『東洋学論叢』第
三十二号(東洋大学文学部紀要第六十集)二〇〇七年三月

三十日、一五九―一七七頁)

「ヒンドゥー教における共生思想―環境保護運動とヒンドゥー
教の言説」(単著、『共生思想研究年報二〇〇六』二〇〇七年

三月三十一日、一〇一―一〇六頁)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学佛教学会(評議員)/日本宗教学会(会員)/日

本南アジア学会(会員)/日本佛教学会(会員)

〈調査活動〉

「ヒンドゥー教とイスラーム教の共生に関わる実地調査および

文献調査」(平成十九年度科学研究費「東洋的知に基づく」共

生」思想の研究」の平成十九年度海外調査研究費により、八

月二十八日から九月九日、ラージャスターン州・パナールラス市・
デリー市にて実施)

〈研究プロジェクトへの参加〉

「中世ヒンドウイズムにおけるバクティ運動の歴史的展開」(平成十九年度科学研究費「基盤研究(B)」、研究代表者:鳥岩「金沢大学」、研究分担者)

「多言語社会における文学の歴史的展開と現在」(インド文学を事例として)(平成十九年度科学研究費「基盤研究(A)」、研究代表者:水野善文「東京外国語大学」、研究分担者)

「東洋的知に基づく「共生」思想の研究」(平成十九年度科学研究費「基盤研究(B)」、研究代表者:竹村牧男「東洋大学」、研究分担者)

「東洋における聖地信仰の研究」(ヒンドゥー教と仏教における聖地巡礼成立の要件)(平成十九年度東洋大学東洋学研究所学術プロジェクト、研究代表者:宮本久義「東洋大学」、研究分担者)

東洋大学共生思想研究センター研究員(センター長:竹村牧男)

〔東洋大学〕

東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ(FIELD)

研究員(機構長:松尾友矩「東洋大学」)

〈教育活動〉

学内担当科目

学部・インド哲学仏教学研究法A(Ⅰ部)

インド宗教史A・B(Ⅰ・Ⅱ部)

ヒンディー文献講読A・B(Ⅰ部)

インド哲学仏教学演習③A・B(Ⅰ部)

仏教と社会A・B(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ)二回担当

「ヒンドゥー教とイスラーム教の共存」(六月九日)

「正当ヒンドゥー教の社会規範と中世の聖者たち」

(十一月一日)

文学部伝統文化講座「聲明講演」(六月二日主催)

校友会寄附講座(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ)一回担当

「哲学館初期のカリキュラムの特色」(哲学教育と

は)(七月二十三日、三限)

大学院・インド哲学研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅲ(前期課程)

インド哲学特殊研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ(後

期課程)

学外担当科目

大正大学学部・ヒンディー語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

〈大学・学部管理・運営活動〉

大学協議委員会委員/文学研究科図書館運営委員会委員/文学部

自己点検・評価委員会委員/東洋学研究所研究員/東洋大学

共生思想研究センター運営委員

〈社会的活動〉

団体役員等

大法輪石原育英会評議員

学術講演／一般講演／講座等

講座「ミラーン・神への愛」(東洋大学生涯学習センター)

公開講座・エクステンション学習講座B(東洋思想への誘

い4)、平成十九年十月二十日、東洋大学白山キャンパス)

渡辺章悟

(論文)

Vairacchedikā Prajñāpāramitā, *Manuscripts in The Schoyen Collection*, Hermes Publishing: Oslo, 2007, pp.89-132. (Paul Harrison との共著)

「Vajra考(2)―石とダイヤモンド」(単著、『東洋学論叢』

第三十二号「東洋大学文学部紀要」第六十集)、平成十九年

三月三十日、九十二〜一二三頁)

(その他)

「インド仏教から見た自然観の可能性」(単著、『エコ・フィロソフィ』研究』第一号、東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアシブ、平成十九年三月、三七〜四二頁)

「仏教思想と共生(インド)」(単著、『共生思想研究センター研究年報』第一号、平成十九年三月、二八〜三三頁)

「現代日本社会における共生の諸相―共生思想の基礎的研究

(1)」(単著、『共生思想研究センター研究年報』第一号、平

成十九年三月、八三〜九一頁)

「共生の英訳はどれが適しているのか―共生思想の基礎的研究(2)」(単著、『共生思想研究センター研究年報』第一号、平成十九年三月、九三〜九九頁)

「仏教の起源・禪の起源」(単著、『天祐山仁叟寺誌』仁叟寺誌編纂委員会、平成十九年四月八日、一〜三九頁)

「新・般若心経」入門」第六回「般若心経」の成立」(単著、『大法輪』一月号、平成十九年一月、一四四〜一五一頁)

「新・般若心経」入門」第七回「般若心経」のタイトルと構想」(単著、『大法輪』二月号、平成十九年二月、一四〇〜一四八頁)

「新・般若心経」入門」第八回「原典から読む『般若心経』(1)―注釈書と帰敬の言葉」(単著、『大法輪』三月号、平成十九年三月、一四八〜一五五頁)

「新・般若心経」入門」第九回「原典から読む『般若心経』(2)―序分」(単著、『大法輪』四月号、平成十九年四月、一四六〜一五二頁)

「新・般若心経」入門」第十回「原典から読む『般若心経』(3)―観自在菩薩の登場」(単著、『大法輪』五月号、平成十九年五月、一五二〜一五九頁)

「新・般若心経」入門」第十一回「原典から読む『般若心経』(4)―五蘊は自体が空である」(単著、『大法輪』六月号、平成十九年六月、二〇六〜二二二頁)

「新・般若心経」入門」第十二回「原典から読む『般若心経』(5)―空の教え」(単著、『大法輪』七月号、平成十九年七月、

一六〇～一六七頁)

「新・般若心経」入門」第十三回「原典から読む『般若心経』(六) —すべては空の姿である」(単著、『大法輪』八月号、平成十九年八月、一六四～一七二頁)

「新・般若心経」入門」第十四回「原典から読む『般若心経』(七) —空性においては、仏説も例外ではない」(単著、『大法輪』九月号、平成十九年九月、一五六～一六三頁)

「新・般若心経」入門」第十五回「原典から読む『般若心経』(八) —無所得によって得られるもの」(単著、『大法輪』十月号、平成十九年十月、一六一～一六九頁)

「新・般若心経」入門」第十六回「原典から読む『般若心経』(九) —「智慧の完成」は真言である」(単著、『大法輪』十一月号、平成十九年十一月、一四八～一五五頁)

「新・般若心経」入門」第十七回「原典から読む『般若心経』(一〇) —「般若波羅蜜多の真言とは」(単著、『大法輪』十二月号、平成十九年十二月、一五六～一六三頁)

「大般若転読会の歴史」(単著、東洋学研究所プロジェクト『東洋思想における個と共同体の關係の探求』、研究代表者：竹村牧男、二〇〇四～二〇〇六年度報告書、東洋大学東洋学研究所、平成十九年三月、三五～四二頁)

「日本人の死後観 —十三仏信仰を中心として」(単著、『日本における死への準備教育 —死の実存的把握をめざして』、研究代表者：高城功夫、『東洋学研究』別冊、東洋大学東洋学

研究所、平成十九年三月、一四三～一六八頁)

「大乘佛敎論」(単著、『仏敎文化』第二二六号、東京国際仏敎塾、平成十九年四月十日、二～五頁)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏敎学会(常務委員・評議員・企画編集委員会委員) / 日本西蔵学会(委員) / 日本宗敎学会(会員) / 日

本佛敎学会(会員) / 仏敎思想学会(会員) / 東アジア仏敎学会(会員) / 国際仏敎学会 IABS(会員)

研究発表

「大乘經典の帰敬文」(日本印度学仏敎学会第五十八回学术大会、平成十九年九月四日、四国大学)

Possibility of View on Nature of Buddhism, 38th International

Congress of Asian and North African Studies, September 14, 2007, Ankara-Turkey.

Various Phases of Bodhisattva in Mahayana Buddhism (大乘菩薩の諸相) 国際真宗学会 August 3-5, 2007 at the University of

Calgary, Alberta, Canada.

学会参加

北海道印仏学会第二十三回学术大会に参加(平成十九年七月二十八日、苫小牧駒澤大学)

〈研究プロジェクトへの参加〉

「東洋思想における個と共同体の關係の探求」(平成十九年度

科学研究費「基盤研究（B）」、研究代表者・竹村牧男「東洋大学」、研究分担者

東洋大学共生思想研究センター研究員（センター長・竹村牧男）
〔東洋大学〕

東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ（TEEPi）
研究員（機構長・松尾友矩）〔東洋大学〕

「チベットのポタラ宮所蔵梵本『維摩經』に基づく総合的研究」
（平成十九年度科学研究費「基盤研究（B）」、研究代表者・多田孝文）〔大正大学〕、研究分担者

「仏教用語の『日英基準訳語集』構築に向けての総合的研究」（平成十九年度科学研究費「基盤研究（A）」、研究代表者・齋藤明）〔東京大学〕、研究分担者

〈教育活動〉

学内担当科目

学部・仏教学概論（Ⅰ・Ⅱ部）

仏教思想論（Ⅰ部）

インド哲学仏教学演習④（Ⅰ部）

文学部総合科目Ⅰ（Ⅰ・Ⅱ部共通）

仏教と社会A・B（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）二回担当

「十九世紀スリランカで行われた宗教論争と宗教対話」（四月二十一日）

「アショーカ王のダルマの政治」（十二月八日）

校友会寄附講座（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）五回担当なら

びに全体責任者

「井上円了は何を目指し、何を實現しようとしたか
―その生涯と実践―」（七月十九日、二限）

「井上円了が受けたカルチャーショック―円了は海外で何を見、何を考えたのか」（七月二十四日、二限）

「哲学館の三恩人」（七月二十四日、四限）

「井上円了の生涯をかけた熱き願い―最後の著作『奮闘哲学』（一月二十三日、三限）
「講義のまとめ」（一月二十三日、四限）

大学院・大乘仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ（前期課程）

仏教学特殊研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ（後期課程）

学外担当科目

東京大学文学部非常勤講師（学部、「インド哲学仏教学特殊

講義」（前期）

〈大学・学部管理・運営活動〉

大学協議会委員／教職課程運営委員会委員／大学院文学研究科

仏教学専攻主任、東洋大学大学院FD委員会委員／東洋学研

究所研究員／共生思想センター研究員／東洋大学「エコ・フ

イロソフィ」学際研究イニシアティブ（TEEPi）研究員

〈社会的活動〉

（財）仏教伝道協会英訳大蔵経編集委員会（委員）／同協会仏

教聖典編集委員会（委員）／（財）全日本仏教会国際交流審議会（委員）／（財）東方研究会（研究員）

伊吹 敦

〈論文〉

〈講演〉講座・シンポジウム・ワークショップ

「大乘佛教論」（東京国際仏教塾、平成十九年六月九日、東京大学仏教青年会ビル）

「日本人のアイデンティティとは何か」（館林市民の会、平成十九年九月一日、館林市役所）

「空の世界に何があるのか」（哲学堂祭、平成十九年十一月三日、中野区哲学堂・宇宙館）

講座「金剛般若経を読む」（東洋大学生涯学習センター公開講座・エクステンション学習講座B（東洋思想への誘い3）、平成十九年六月十六日、東洋大学白山キャンパス）

東洋大学共生思想研究センター主催第二回公開シンポジウム「社会の共生―相克と調和を繰り返す社会の未来を見すえて」で、司会を担当（平成十九年十二月十五日、東洋大学白山キャンパス六号館）

東洋大学共生思想研究センターと東北公益大学とのワークショップおよび羽黒山・善宝寺、秋田赤十字短大にて研修（平成十九年十二月二十三〜二十五日、山形県酒田市・鶴岡市・秋田県秋田市）

東洋大学共生思想研究センターと東北公益大学とのワークショップ

「宋の成立と禪（上） 要説・中国禅思想史 一四」（单著、『禅文化』二〇五、平成十九年七月二十五日、二六〜三四頁）

「宋の成立と禪（下） 要説・中国禅思想史 一五」（单著、『禅文化』二〇六、平成十九年十月二十五日、六四〜七二頁）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本佛教学会（理事）／東アジア仏教研究会（役員）／日本

Jinhua Chen, Lori Meeks ed. *Development and Practice of Humanitarian Buddhism: Interdisciplinary Perspectives*, Tzu Chi University Press, Hualien, Taiwan, 2007, pp. 69-80.)

〈その他〉

「唐から宋へ（上） 要説・中国禅思想史 一二」（单著、『禅文化』二〇三、平成十九年一月二十五日、四四〜五三頁）

「唐から宋へ（下） 要説・中国禅思想史 一三」（单著、『禅文化』二〇四、平成十九年四月二十五日、一〇九〜一一八頁）

「宋の成立と禪（上） 要説・中国禅思想史 一四」（单著、『禅文化』二〇五、平成十九年七月二十五日、二六〜三四頁）

「宋の成立と禪（下） 要説・中国禅思想史 一五」（单著、『禅文化』二〇六、平成十九年十月二十五日、六四〜七二頁）

印度学仏教学会（会員）／仏教思想学会（会員）／早稲田
大学東洋哲学会（会員）／財団法人東方学会（会員）
研究発表

「墓誌銘に見る初期の禪宗」仏教史学会第五十八回学術大会、
平成十九年十月二十日、花園大学

〈教育活動〉

学内担当科目

学部：中国仏教史（Ⅰ・Ⅱ部）

仏典の思想と文化ⅡA（Ⅱ部）

インド哲学仏教学研究法B（Ⅰ部）

インド哲学仏教学演習⑥（Ⅰ部）

インド哲学仏教学演習⑨（Ⅱ部）

仏教と社会A・B（Ⅰ・Ⅱ部兼任入れ）二回担当

「唐代における禪宗をめぐる対話」（七月十四日）

「中国における仏教と社会規範の交渉」（十月十七
日）

校友会寄附講座（Ⅰ・Ⅱ部兼任入れ）一回担当

「哲学館の後継者たちの活躍―境野黄洋、高嶋米
峰など（一月十六日、三時限）

大学院：中国仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅳ（前期課程）

仏教学特殊研究Ⅲ・仏教学研究指導Ⅳ（後期課程）

〈大学・学部管理・運営活動〉

インド哲学科第Ⅱ部主任／Ⅱ部主任会議委員／文学部内資格審

査委員会委員／文学部内カリキュラム委員会委員／東洋学研
究所研究員

〈社会的活動〉

講座「『牛牛図』を読む」（東洋大学生涯学習センター公開講座・
エクステンション学習講座B（東洋思想への誘い3）、平成
十九年六月二日、東洋大学白山キャンパス）

〈学会活動〉

財団法人東方研究会兼任研究員

山口しのぶ

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（会員）／日本宗教学会（会員）／南ア
ジア学会（会員）／日本佛教学会（会員）／密教図像学会
（会員）／東海印度学仏教学会（会員）／パトリ学仏教文
化学会（会員）

学内担当科目

学部：インド哲学仏教学演習⑧（Ⅰ部）

インド哲学仏教学演習⑫（Ⅱ部）

インド・仏教図像学（Ⅰ・Ⅱ部）

チベット文献講読（Ⅰ部）

宗教学ⅡA・B（Ⅱ部）

仏教と社会A・B（Ⅰ・Ⅱ部兼任入れ）二回担当

「ネパールにおける仏教とヒンドゥー教」（五月

十九日)

「密教儀礼の構造と機能」(十二月十五日)

大学院・大乘仏教研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅱ(前期課程)

〈大学・学部管理・運営活動〉

外国語委員会委員／東洋学研究所研究員・運営委員／出題される問題内容の検討者

〈社会的活動〉

講座「チベット死者の書」を読む(東洋大学生涯学習センター

1公開講座・エクステンション学習講座B(東洋思想への誘い3)、平成十九年六月九日、東洋大学白山キャンパス)

沼田一郎

〈論文〉

「dharma 文献における司法主題の名称とその内容―

svAmipAlavivAda に ついて」(単著、「東洋学論叢」第三十二

号)〔東洋大学文学部紀要〕第六十集、平成十九年三月三十日、

二二―二七頁)

「ヒンドゥー教の家族観―古典法典文献を主資料として」(単

著、『平和と宗教』(庭野平和財団)、平成十九年十二月二十日、

四四―五二頁)

〈その他〉

「インドにおける出家主義の意味」(単著、『東洋学研究所プロ

ジェクト「東洋思想における個と共同体の関係の探求」

二〇〇四―二〇〇六年度報告書、平成十九年三月三十日、

四三―四五頁)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本南アジア学会(会員・英文叢書委員会委員)／日本印度

学仏教学会(会員)／日本佛教学会(会員)／北海道印度

哲学仏教学会(会員・評議員)

研究発表

「dharma 文献における司法規定の位置づけ」(日本印度学仏教

学会第五十八回学術大会、平成十九年九月四日、四国大学)

「『実利論』における司法規定」(北海道印度哲学仏教学会学術

大会、平成十九年七月二十八日、苫小牧駒澤大学)

「法典(シャーストラ)の歴史を通して『インドの文明』を見

通す」(日本南アジア学会二十周年記念連続シンポジウム第二

回・インドの文明」とは何か・1、平成十九年十二月八日、

東京大学)

〈研究プロジェクトへの参加〉

「東洋における聖地信仰の研究…ヒンドゥー教と仏教における

聖地巡礼成立の要件」(平成十九年度東洋学研究所プロジェクト

クト、研究代表者：宮本久義「東洋大学」、研究分担者)

〈教育活動〉

学内担当科目

学部・サンスクリット文献講読A・B (I部)

インド文化論IA・B (II部)

インド哲学仏教学演習 (I部)

インド哲学仏教学研究法A (II部)

インド古典哲学 (II部)

仏教と社会A・B (I・II部乗り入れ) 全体責任者

「開講にあたって」(四月十四日、十月六日)

学外担当科目

高千穂大学非常勤講師(学部、「宗教学A・B」)

〈大学・学部管理・運営活動〉

東洋学研究所研究員・運営委員／東洋学研究所『東洋学研究』

編集委員／文学部予算委員会委員／文学部入試委員会委員

〈社会的活動〉

講座「『実利論』——神秘主義を超える政治論の世界」(東洋大)

学生涯学習センター公開講座・エクステンション学習講座B

〈東洋思想への誘い4〉、平成十九年十月二十七日、東洋大学

白山キャンパス)

岩井昌悟

〈その他〉

『Visakha MigaramAIA 関係資料』(共編、中央学術研究所紀

要モノグラフ篇第十二号、中央学術研究所、平成十九年四月

十一日、一七〇頁)

「真実を求める」「精進と信仰」「真実を説く」(項目解説、「大

法輪」十二月号(特集——真理への道、ブツダの名句・名言、

平成十九年十二月一日、九四〜九五頁、九六〜一〇〇頁、

一一八〜一二九頁)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会(会員)／日本宗教学会(会員)／日本

佛教学会(会員)／仏教思想学会(会員)

研究発表

「舍利弗の智慧——大慧者の意味するところ」(日本佛教学会

学術大会、平成十九年九月十一日、武蔵野大学)

〈研究プロジェクトへの参加〉

「東洋における聖地信仰の研究——ヒンドゥー教と仏教における

聖地巡礼成立の要件」(平成十九年度東洋学研究所プロジェクト

クト、研究代表者・宮本久義「東洋大学」、研究分担者)

〈教育活動〉

学内担当科目

学部・インド哲学仏教学演習 (I部)

インド仏教史A・B (I・II部)

パリ語講読 (II部)

仏教古典哲学 (II部)

インド哲学仏教学研究法B (II部)

仏教と社会 (I・II部乗り入れ) 二回担当

「初期仏教聖典に見る異教徒に接する釈尊の態度」

(六月二日)

「仏伝文学に見られる菩薩が果たす社会的義務」(一

月十二日)

〈大学・学部管理・運営活動〉

図書館図書選書担当者／情報機器運営委員会委員／東洋学研究
所研究員

平成十九年度演習ゼミ活動報告

沼田一郎

インド哲学仏教学演習①

①テーマ「インド古代社会研究の理論」

②メンバー 幹事・三戸陽子（三年生）、（幹事を除く）四年生七

名、三年生十〇名、二年生十五名

③活動報告

今年度は日本語文献の輪読をやることにして、デュモンの『モモ・ヒエラルキカス』を選んだ。これはカースト研究の古典とも言える理論書であり、参加者の関心とそれほど離れていなかったとは思う。ただ、内容が高度で抽象的であること、文体が難解なこと（翻訳であるからかもしれない）などによって、相当苦勞したようである。これならばいっそのこと英文の原書を読んだ方がじっくりと理解できたのではないかとも思われるので、来年度は別の英文論文集の講読を中心としたこととした。

その他には研究発表と卒論報告を軸に進めたが、前者は興味関心の多様性もあつて散発的であつた。後者については、早くから着手した者は内容の濃い論文を完成したし、そうでない者も各自の興味に忠実に取り組んだことよつて、まとまつた成果を出せたとする。また「卒業制作」で「優秀論文」が出たことも特筆に値する。

宮本久義

インド哲学仏教学演習②

①テーマ「インド思想研究」

②メンバー（春学期）幹事・富井龍司（幹事）、南浩一（副幹事）、

（幹事を除く）、四年生十一名、三年生七名、二年生十三名、（秋

学期）幹事・南浩一（幹事）、棚山擁也（副幹事）、（幹事を除く）

四年生十三名（アメリカ留学より帰国した一名を含む）、三年

生七名、二年生十二名

③活動報告

本年度も、サンスクリット原典の講読といくつかの班に分かれての研究発表という二本立てでゼミを行った。原典講読は、インド六派哲学のひとつでヒンドゥー教の宗教思想の基盤となっているヴェーダーンタ学派の綱要書『ヴェーダーンタ・サーラ』を選び、担当者が文法的解説と和訳を発表する形で行つた。一人が教行ずつ担当する形だったので、進み具合が遅かつたが、インド哲学者の特徴的思考法に触れられたことは大いに意味があつたと思う。研究発表は、哲学班、神話班、文学班、文化班が順番に研究発表を行い、それについて討論する形を進めた。今年度は文学班の学生が少なかつたので、来年度は班分けを見直す必要があるだろう。

夏期の研修合宿は九月三日から二泊三日、鴨川セミナーハウスで行つた。四年生の卒論中間発表と各班の発表に対して、参加者がコメントする形だったので、時間はかかつたが、充実した

時間がもてたと思う。しかし、この時期までに卒論の準備がほとんどできていない学生も多かったので、来年度は早めに指導したい。二日目の午後教時間は自由時間とし、楽しい時を過ごすことができた。

橋本泰元

インド哲学仏教学演習③

①テーマ「ヒンドゥー教思想研究」

②メンバー 幹事・東間友宏（三年生）、（幹事を除く）他四年生一〇名、三年生一五名、二年生六名（ほかに旧カリのⅡ部四年生三名、再履修Ⅱ部四年生一名が参加）

③活動報告

昨年度に引き続き、初めの数回で本ゼミの授業の主旨、資料概説、卒業論文を視野に入れた論文執筆方法などを講義した。そのなかで、大勢のゼミ生を、それぞれの関心に従って大きく思想班（ヒンドゥー教思想）、文学班（主に古典文学）、文化班A（ヒンドゥー教民間儀礼）、文化班B（ヒンドゥー教女神信仰）の四班に分けた。

これらの班は昨年度をほぼ継承しているので、各班における発表とレジュメの作成などの提示方法も徐々によくようになってきたと思う。しかし、昨年度の反省点と同じであるが、参考資料のほとんどが邦文文献であり、ヒンドゥー教に関わる原典を読み資料を批判的に読むという訓練になかなか取り組めなかった。ただ、英文

資料に取り組み個人研究をするゼミ生が少し増えてきたことは喜ばしい。

この自主的研究発表と平行して、四年生の卒業論文あるいは卒業制作の中間発表も行った。四年生の半分は夏期研修にて行った。今年度は、参加者数が多かったせいか大学ゼミナーハウスに予約できず、大学の通常の教室を借りて九月二十一日、午前十時からほぼ十七時まで充実した夏期研修を行えた。

渡辺章悟

インド哲学仏教学演習④

①テーマ「大乘仏教の研究」

②メンバー 幹事・三山知世（四年生）、（幹事を除く）四年生七名、三年生一名、二年生三名

③活動報告

本年の研究発表は、本ゼミは大乘仏教の研究をテーマとし。学生の意欲的な研究活動を促進するため、毎回特定のテーマを決めて研究発表を行う方法をとっている。

最初に担当者が運営方針やら大乘仏教の概要を説明し、その後にはすでに経験のある四年生が実際に共通テーマとした生命観や個人研究の中間報告などを行った。今年のゼミは大半が四年生であったため、彼ら同士の発言が中心となり、その意味では活発であったが、少数の二、三年生は出席率も悪く、発言も低調であった。また、本年はスケジュールの都合がつかず、夏合宿はできなかった。

た。その代わりに十一月五日（月）の大学祭整理日（休校日）を利用して、練馬区南田中にある真言宗智山派の観藏院が開設する曼荼羅博物館へ研修に出かけた。ゼミのほぼ全員と大学院生数名も参加し、盛会であった。

当日は、博物館館長が対応して下さったが、記念展示会と重なり、見学者が多くかった。また、大正大学の博物館実習の学生さんが何人かいて、研修していた。博物館では担当者の長年の友人でもある住職・小峰彌彦（大正大学学長）先生が、一時間以上にもわたって密教および曼荼羅の解説、さらに博物館の展示品の案内をして下さり、通常の講義とは違った専門家の話が聞けたことで、皆一様に刺激を受けたようであった。

博物館での学習の後には、寺院内の見学、特に本堂の脇に飾られている両部曼荼羅を拝観。喫茶の歓待を受けた後、庭の散策をさせていただき、夕刻に解散。帰りには全員に観藏院で制作したカレンダー（チベットの仏画師が描いた阿弥陀仏）を戴き恐縮した。なお、数名は担当者とともに池袋にて懇親会を行った。

今年度は卒論の提出時期が早まったこともあり、なるべく早い時期での仮提出を義務づけ、修正することができた。ほとんどはきちんと対応し、卒論の完成に効果があったが、中には直前になつてメールで送ってくる学生もいた。ただ、それでも直前に送ってくるだけましなかもしれない。

今回の方法で、きちんと対応する学生の卒論のレベルは確実に向上したように思う。一方、特定のテキストを原典から読みこな

して研究する学生が少ないことは悩みの種である。

岩井昌悟

インド哲学仏教学研究⑤

①テーマ「原始仏教学研究」

②メンバー（春学期）幹事・田中庸介（四年生）、（幹事を除く）

四年生二名、三年生四名、二年生四名、（秋学期）幹事・中島

寿丸（三年生）、（幹事を除く）四年生三名、三年生四名、二年

生四名

③活動報告

平成十八年度をもって退職された森章司先生（現在は東洋大学名誉教授）のゼミを引き継ぐ形で本年度より岩井ゼミがスタートした。ゼミの進め方としては、最初に指導教員が原典について概論を講義し、その後は、卒業論文・卒業制作を視野に入れた「個人研究」とゼミ生全員である特定のテーマを研究する「共同研究」の二本立てで、個人研究の報告が一巡したら、共同研究の発表に移り、それが終わるとまた個人研究に戻るという形で、両研究を交互に進めた。なお「共同研究」とはいつでも各人が主体的に同一テーマにとりくむ形であり、グループ別の研究ではない。また適宜、共同研究に関わるテーマで、指導教員による講義はあった。

今年度に設けた共同研究テーマは「業は結果以前に変更可能か？」というものであった。この問題を明らかにすべく、各ゼミ

生が分担（南伝大藏経で一人3〜4冊）してパーリ聖典を翻訳によつて読み進め、毎回読んだ箇所から共同研究テーマに関連するなんらかの発表を行った。残念ながら本年度には共同研究テーマに関して明確な結論は得られなかったものの、翻訳を通してでも、とにかく聖典に直接触れてもらいたいという意図が指導教員側にあり、その点は達成できたであろう。

九月の夏合宿（二十八日〜三十日）は四年生の卒業中間報告が中心であったが、三、二年生にも個人研究の発表をしてもらった。またこの時に最初のゼミ・コンパを行い、その時になって初めて生き生きとした学生の顔が見られたので、もっと早くにコンパを開いて学生間の親睦が深まるよう積極的に働きかけるべきであったことを痛感した。

四年生三人が卒業論文を提出した。三年次まで森先生の指導を受けてきた彼らはやはり優秀であつて、特筆すべきこととしては山本一誠君の「律蔵から読み解く原始仏教の女性観―釈尊の女性観」が校友会賞を受賞した。

伊吹 敦

インド哲学仏教学演習⑥

①テーマ「禅思想研究」

②メンバー 幹事・角一沙耶（四年生）、（幹事を除く）四年生三名、三年生三名、二年生三名

③活動報告

本年度は、前期は『六祖壇経』、後期は『無門関』をそれぞれ輪読した。当初は、敦煌本『六祖壇経』をテキストとし、興聖寺本と比較することで、テキストの変化を通して禅宗の形成過程について理解させようと考えたが、参加者には容易ではなかったらしく、うまく意図が伝わらなかった。そこで、後期にはテキストから改め、『無門関』を輪読することで、まずは、禅の悟りとは何か、禅文献の性格はどういったものかといったことを理解させるよう努めた。初めは、禅文献に馴れないため、なかなか意味がとれず、当てのはずれた発表が多かったが、年度末には、かなり核心を突いた発言も見られるようになってきたのは心強かった。結果から見れば、半期毎にテキストを変えるのも、マンネリ化を防ぐという点で、利点が多いように思えた。

一年を通じて痛感したのは、よい日本語訳がないということであった。原文と和訳を併用して授業を進めようとしたが、敦煌本『六祖壇経』についても、『無門関』についても和訳に誤りが多すぎ、参加者に無用な負担をかけてしまった。しかし、その問題点を指摘することで、「本をそのまま信じてはならない」という基本的な態度を養えたことは、無意味ではなかったかも知れない。

課外活動としては、コンパを前期と後期に一回づつ行うとともに、夏季休暇中に鎌倉への小旅行を行った。昼間は大仏や円覚寺、建長寺、鶴岡八幡宮などの神社・仏閣をめぐり、夜は安宿で騒いで楽しい時間を過ごした。

竹村牧男

インド哲学仏教学演習⑦

①テーマ「日本仏教の古典とその思想」

②メンバー 幹事・中嶋陽平(四年生)、副幹事・窪明博(三年生)、

(幹事を除く) 四年生十七名、三年生七名、二年生六名

③活動報告

本年度は、昨年度に引き続き、「日本仏教の古典とその思想」をテーマにゼミを行った。ただし四年生は、卒論研究を優先し、卒論のテーマで発表をもらった。四年生の発表が、秋学期に設定されたため、卒論提出間際の発表になったケースもあり、今後、この点を改善していく必要性を感じた。三年生・二年生は、テーマに沿っての発表であり、人数が少なくなつたこともあつて、発表回数は夏季のゼミ合宿を含め、3回できたのではないかと思う。三年生は昨年度の経験もあり、多少慣れていたようであるが、二年生もおおむねしっかりした発表をしてくれて、今後に期待が持てた。古典というテーマで、書物の概要とその主張の一部をとりあげてもらつたが、書物全体の構成・内容・意義等の把握は、むずかしかつたようで、その一節のみを取り上げ、発表する例が多かつた。非常に取組みやすいテーマを掲げたにもかかわらず、十分に調査・研究した跡があまり見られなかつたのは残念である。採り上げられた古典は、『歎異抄』が多く、他に『正法眼蔵』『十七条憲法』などが見られた。さすがに旧仏教系の書物を採り上げた者は少なかつた。

年間の行事として、四月には歓迎コンパを行い、夏休みには山中湖のセミナーハウスでゼミ合宿を行なつた。十二月、忘年会を行い、三月には追い出しコンパを予定している。二泊三日のゼミ合宿の参加者は、四年生が中心で、特に二年生の出席者がいなかったことは大変残念であつた。合宿では、研究発表も二日にわたつて行うとともに、夕食後の懇談会でも大いに懇親を深めた。

山口しのぶ

インド哲学仏教学演習⑧

①テーマ「インド・チベット密教の研究」

②メンバー 幹事・佐藤美穂(三年生)、(幹事を除く) 四年生四名、三年生六名、二年生九名

③活動報告

本年度春学期は英語の文献講読、秋学期は個人発表を中心にゼミを進めた。講読した文献は *Shelvoke* 著、*Indo-Tibetan Buddhism, 1987* であり、その中でも特にタントリズム(密教)について述べた第三章を読み進めた。この文献は初期仏教から密教の歴史とその特色、およびアジア各地への仏教の広がりについて述べた概説書である。授業においては各自予習をし、授業中和訳し、問題点などを質疑応答するという形式をとつた。最初は仏教に関する英語文献講読に慣れていない学生が多く、用語の訳し方等戸惑つたことも多々あつたが、半年間翻訳作業を行つていくうちに次第に雰囲気慣れていった。秋学期は各自で興味のあるテ

テーマを決定し口頭発表を行った。本ゼミはとくに仏教図像、美術に興味のある学生が多く、仏像やマンダラ、仏教寺院構造についての発表が多かった。また夏期休暇中、九月十日から十二日まで富士見高原セミナーハウスで合宿を行った。合宿では四年生の卒業中間報告、付近寺社の散策などを行った。この合宿は二部と合同で行ったので、普段授業で顔を合わせることの無い一部二部の学生の親睦にもなり有意義であった。

伊吹敦

インド哲学仏教学演習⑨（Ⅱ部）

- ① テーマ「仏教思想研究」
- ② メンバー 幹事・大滝彩加（二年生）、（幹事を除く）四年生二名、三年生二名、二年生二七名
- ③ 活動報告

昨年度と同様、次のような方法で授業を行った。

1. インド・中国・日本で著された仏教関係の著作のうち、もつとも重要と思われるもの二十数篇を選び出し、それぞれに担当者を決めた。
2. 担当者には、その著作について、著者・著作の経緯・内容構成・思想・歴史的意義等について調べてレジュメにまとめるよう指導した。
3. 授業の各回ごとに一篇づつの著作を割り当て、担当者に発表してもらい、質疑応答を行うとともに、教員が補足を行っ

た。

結果として、参加者は、前期と後期にそれぞれ一回づつ発表することとなったが、自分の発表に関してはそれぞれかなりの努力の跡が見られたものの、質疑は活発とは言えず、盛り上がりに欠けた。自他の共同作業で授業をより立てていくという意識を植え付ける必要を感じた。

また、教員の側でも、仏教史における重要性に鑑みて取り上げる著作を選んだため、必ずしも詳しくないものも含まれており、かなりの準備が必要であった。できる限りのことはしたつもりであるが、なお説明などの点で十分でない点があったかもしれない。課外活動としては、前期・後期、それぞれ一回づつコンパを行った。合宿などもできればよかったが、諸般の事情のため果たせなかったのは遺憾である。

出野尚紀

インド哲学仏教学演習⑩（Ⅱ部）

- ① テーマ「インド叙事詩文学の研究」
- ② メンバー 幹事・若林学（二年生）、（幹事を除く）三年生一名、二年生十八名
- ③ 活動報告

テーマを「インド叙事詩文学の研究」と設定し、輪読を通じて叙事詩の学習をしようと試みたが、一年時に「サンスクリット文献講読」を履修していない学生が多く見られたので、残念ながら、

全履修生が当初設定した『ナラ王物語』第二章の輪読をすることは、不可能であると判断した。そのため、希望者のみ『ナラ王物語』第二章の輪読発表を、一度に一偈ずつ三度、任意の順序で行った。発表方法は、各自読解レジュメを用意し、配布することとした。また、OHCによる投影も同時に行った。一方、輪読を希望しない学生には、個人、もしくはグループでの研究発表を一年に三度ずつ行った。発表者以外が、教室に存在するだけとならないように、各研究発表に対して、出席者は質問・コメントを述べ、それを記入者一名が記入し、次の回に発表者が回答をするという形式を採った。なお、レジュメ提出は、発表一週間前として、予習の便を図った。このため、各回の授業は、①輪読発表、②前回の発表に対する回答、③研究発表、という順序で進めた。しかし、輪読と研究発表という二つのグループに分かれたため、取り組みの割合や難度に違いが感じられ、些か分裂した印象となっていた。

また、日頃の教室での授業だけが人間形成の全てではないので、場所選びや予算設定を学生に任せて、四月二十六日に栗鴨、そして、十月四日に池袋、と都合二度のコンパを行った。ゼミ合宿は、初回に実行の可否を尋ねたところ、参加希望者が少なかったため、行わなかった。他に、六月十七日に学生有志と佃・月島・門前仲町の散策を行った。

反省点を述べればキリがないが、演習を担当し指導するには、担当教員が、学問的にも人間的にも、余りに力不足な面が顕著で

あり、受講生には多大な迷惑をかけたことをまず羞じねばならぬと思う。(二〇〇八年一月十日、ゼミ生の意見を取り入れ作成)

宮本久義

インド哲学仏教学演習①(Ⅱ部)

①テーマ「インド思想研究」

②メンバー 幹事・小林林太郎(幹事)、上野純子(副幹事)、(幹事を除く) 四年生十一名、三年生六名(秋学期より一名アメリカ留学のため五名)

③活動報告

このゼミは昨年度に開講され、三年生のみ七名という小所帯であったが、本年度は新たに学生が加わり、活気ある授業ができた。授業は原典講読と個人発表に分け、原典講読ではインド六派哲学のひとつでヒンドゥー教の宗教思想の基盤となっているヴェーダーンタ学派の綱要書『ヴェーダーンタ・サーラ』を選び、担当者が文法的解説と和訳を発表する形で行った。

個人発表は三年生、四年生とも、卒論に向けて自分で章立てをしたうち、各テーマを順次発表してもらったが、特に四年生は四度くらいの発表の機会が持てたので、のちに提出された卒論にその準備が十分活かされたと思う。

夏期の研修合宿は八月四日から二泊三日、富士見高原ゼミナールハウスで行った。四年生の卒論中間発表とともに、三年生にも卒論のテーマと内容の発表をしてもらった。発表者に対して、参加

良かったとの声が聞かれた。

者一人一人が今後どのように卒論をまとめていくか提言する形でコメントした。この方法は質問者にとっても非常に勉強になったと思う。次年度は担当教員の変更でこのゼミから離れるが、新四年生で希望するものがあれば卒論指導を継続したい。

山口しのぶ

インド哲学仏教学演習⑫（Ⅱ部）

①テーマ「インド・チベット密教の研究」

②メンバー 島田奈津希（幹事）、（幹事を除く）四年生五名、三年生四名

③活動報告

本年度春学期は英語の文献講読、秋学期は個人発表を中心にゼミを進めた。講読した文献は Fisher 著、*Buddhist Art and Architecture, 1993*であった。この文献はインドから始まった仏教美術の発展とアジア各地への伝播について概説した仏教美術入門書である。各自予習の上、授業では翻訳と解説を行ったが、予習をしつかりしてくる学生と準備が不十分な学生との差が大きかった。秋学期は各自の興味にしたがつて研究発表を行い、発表内容は、初期仏教、日本仏教、密教の思想や仏教・ヒンドゥー教美術等多岐にわたった。

夏期休暇中は九月十日から十二日まで、一部ゼミと合同で富士見高原セミナーハウスにおいて合宿を行った。二部からは三名の参加であったが、参加学生からは一部学生との交流ができて

平成十九年度開講科目

・通年科目はA(春)・B(秋)に分かれるが、担当者が同一の場合、その区分は省略して記した。
 ・授業名の後のカッコ内はサブタイトルを示す。
 ・担当者に付したカッコ内の数字は、それぞれⅠ部・Ⅱ部の区別を示す。カッコが付されていないものは、Ⅰ部Ⅱ部隔年開講の科目か、Ⅰ部・Ⅱ部の担当者が同一であることを示す。

〈学部〉

- イスラム教概説《秋》(イスラームのとらえ方) 後藤 明
 インド・仏教図像学(仏の姿とその意味) 山口しのぶ
 インド現代思想 宮本久義
 インド古典哲学 宮本久義(Ⅰ)
 インド古典哲学《秋》(インド古典哲学概説) 沼田一郎(Ⅱ)
 インド宗教史(インド世界の思想の流れを見る) 橋本泰元
 インド哲学仏教学演習①(インド社会研究の理論) 沼田一郎(Ⅰ)
 インド哲学仏教学演習②(インド思想研究) 宮本久義(Ⅰ)
 インド哲学仏教学演習③(中世ヒンドゥー教思想研究) 橋本泰元(Ⅰ)

- インド哲学仏教学演習④(インド大乘仏教の研究) 渡辺章悟(Ⅰ)
 インド哲学仏教学演習⑤(原始仏教研究) 岩井昌悟(Ⅰ)
 インド哲学仏教学演習⑥(禅思想研究) 伊吹 敦(Ⅰ)
 インド哲学仏教学演習⑦(日本仏教の古典とその思想) 竹村牧男(Ⅰ)
 インド哲学仏教学演習⑧(インド・チベット密教の研究) 山口しのぶ(Ⅰ)
 インド哲学仏教学演習⑨(仏教思想研究) 伊吹 敦(Ⅱ)
 インド哲学仏教学演習⑩(インド叙事詩文学の研究) 出野尚紀(Ⅱ)
 インド哲学仏教学演習⑪(インド思想研究) 宮本久義(Ⅱ)
 インド哲学仏教学演習⑫(インド・チベット密教の研究) 山口しのぶ(Ⅱ)
 インド哲学仏教学研究法A(インド哲学仏教学への誘いーイン
 下分野からー) 沼田一郎(Ⅱ)
 インド哲学仏教学研究法A(インド哲学仏教学への誘いーイン
 下分野からー) 橋本泰元(Ⅰ)
 インド哲学仏教学研究法B(仏教をいかに学ぶか)伊吹 敦(Ⅰ)
 インド哲学仏教学研究法B(仏教分野) 岩井昌悟(Ⅱ)
 インド仏教史 岩井昌悟
 インド文化論Ⅰ 沼田一郎
 インド文化論Ⅱ(道をめぐるインドの歴史と文化) 宮本久義

インド文学（ヴェンデイヤ山脈の頂きからインド文学を見る）

高田茂樹（Ⅱ）

キリスト教概説《春》（キリスト教の誕生）

伊藤 聡

キリスト教概説《春》（キリスト教の誕生）

佐藤 厚（Ⅱ）

サンスクリット文献講読（古典サンスクリット初級文法）

日本仏教史

竹村牧男（Ⅰ）

サンスクリット文献講読①②（古典サンスクリット入門）

日本仏教史（日本仏教の歩み）
日本と社会A《春》「宗教間対話」・《秋》「宗教と社会規範」
（オムニバス形式）

チベット文献講読

仏教と社会A《春》「宗教間対話」・《秋》「宗教と社会規範」
（オムニバス形式）

沼田 一郎

チベット文献講読

仏教漢文講読

渡辺章悟

チベット文献講読

仏教漢文講読

橋川智昭

チベット文献講読

仏教古典哲学（仏教の基礎的な考え方、用語を学ぶ）

佐古年穂（Ⅰ）

チベット文献講読

仏教古典哲学《春》（原始仏教からアピタルマ仏教（部派仏教）へ）

岩井昌悟（Ⅱ）

チベット文献講読

仏教思想概論Ⅰ（般若中観思想）

渡辺章悟

チベット文献講読

仏教思想概論Ⅱ（唯識思想）

橋川智昭

チベット文献講読

仏教思想概論Ⅱ（唯識思想）

計良隆世

チベット文献講読

仏典の思想と文化ⅠA（華嚴経の思想と文化）

金本拓士

チベット文献講読

仏典の思想と文化ⅠB（密教の思想と文化）

金本拓士

チベット文献講読

仏典の思想と文化ⅡA（禅の思想）

伊吹 敦

チベット文献講読

仏典の思想と文化ⅡB（『歎異抄』を読む）

本多静芳

チベット文献講読

（大学院）
博士前期課程

チベット文献講読

サンスクリット文献研究Ⅰ・インド哲学研究指導Ⅰ（インド哲

チベット文献講読

学概論（知の目的―西洋哲学と仏教―）

チベット文献講読

東洋思想（神秘思想（タントリズム）の成立と展開）

チベット文献講読

東洋思想（神秘思想（タントリズム）の成立と展開）

チベット文献講読

東洋思想（神秘思想（タントリズム）の成立と展開）

チベット文献講読

東洋思想（神秘思想（タントリズム）の成立と展開）

チベット文献講読

東洋思想（神秘思想（タントリズム）の成立と展開）

チベット文献講読

東洋思想（神秘思想（タントリズム）の成立と展開）

学大系の研究)

宮本久義

インド哲学研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅲ(中世インド思想の研究)
橋本泰元

インド哲学研究Ⅲ(祭式・儀礼から見たインドの文化の変容)

永ノ尾信悟

初期仏教研究Ⅰ(仏教学の常識の再検証)

森 章司

初期仏教研究Ⅱ(アビダルマ仏教研究)

佐古年穂

大乘仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ(初期大乘仏教の研究)

渡辺章悟

大乘仏教研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅱ(インド・チベット密教研究)
山口しのぶ

大乘仏教研究Ⅲ(中観思想史研究―二真理(二諦) 解釈の視点から―)
齋藤 明

中国仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅳ(中国仏教研究) 伊吹 敦

日本仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅲ(「華嚴五教章」)「所詮差別」
章講読) 竹村牧男

日本仏教研究Ⅱ(天台教学の基盤―教判を中心に―)

大久保良俊

博士後期課程

インド哲学特殊研究Ⅰ・インド哲学研究指導Ⅰ(正統パラモン
系統の思想研究) 宮本久義

インド哲学特殊研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ(中世インド思想の研究)
橋本泰元

仏教学特殊研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ(初期大乘仏教の文献的研究)
渡辺章悟

仏教学特殊研究Ⅲ・仏教学研究指導Ⅳ(中国仏教研究)

伊吹 敦

仏教学特殊研究Ⅳ・仏教学研究指導Ⅲ(日本唯識思想研究)

竹村牧男

平成十九年度卒業論文

〈I部〉

川口 信介 現代の地藏菩薩と珍しい地藏様の画像集

内池那津子 インド映画が受けてきた文化的影響とベンガルの芸術映画について

術映画について

古川 彩乃 修験道の歴史と教義から見る仏教との関連性

森谷 有美 日本人の宗教性について

角一 沙耶 近世日本における浮世観と仏教

渡邊 直子 薬師如来砂マンダラの刺繍制作

伊藤美有紀 弘法大師空海の前半生にみる謎―空海の生き方を考える

考える

柿沼 優子 『KONDURU』翻訳

樋口 望 空也と民間念仏運動

菊池 章浩 日本宗教の課題と解決策

寺島 俊介 カシユミール地方の文化と宗教

柳澤 晴 K.T.Acharya *Indian Food : A Historical Companion* 『インドの食物―歴史の手引き』についての注釈

インドの問題と今後の課題

柳田 直 インドの鉄道―現在の問題と今後の課題

高村 裕貴 仏像制作

鎌田 理奈 良寛さん―漢詩を中心に生涯と人間の幸せを学ぶ

五十嵐美貴子 『往生要素』における地獄からみる因果応報思想

〔業の思想を基本的立場として〕

新井 有咲 アーユル・ヴェエダの養生法

宮崎 真汐 立体金剛界曼荼羅

鈴木 翔 インドの建築

富井 龍司 インドサッカーの可能性―世界各国のリーグを見本として

工藤 京美 観音菩薩の研究―『妙法蓮華経』「観世音菩薩普門品」第二十五を中心として

池野 悦子 ヒンドゥー女神が有する両義性とシャクテイの考察

津曲 祐樹 〔地母神崇拜からタントリズムまで〕

津曲 祐樹 歎異抄・第三章について 特に悪人正機説について考察する

鈴木 俊也 密教経典としての般若心経

松村 由衣 創世神話の比較―リグ・ヴェエダと古事記の世界観の相違

植木 雄大 インドにおける競馬とその歴史

木村 健 本生経 (Jataka) 〔特に南伝大藏経の本生物語について〕

塩野 そら 横尾忠則とインド

早川 紀子 インドの「食」

山本 一誠 律蔵から読み解く原始仏教の女性観―釈尊の女性観

針谷 光一 法華経の中における菩薩観に関して声聞が菩薩にな

るまで

石川 朋子 ヒンドゥー教の女性たち

井上 弥生 大乘経典における提婆達多の研究

田中 陽子 ダーキニーと密教

本多 未歩 『サンヴァアローダヤ・タントラ』におけるサンヴァア
ラ尊観想

三國 大空 カースト制度とその影響

佐藤 馨 OCHO・バグワン・シユリ・ラジニーシを通してみ
る現代における結婚と出産の考察

三山 知世 大乘仏教における人間観の研究——「維摩経」を中
心として

梶 新吾 ヴァルナ制度の中のシユードラ

橋本 知佳 ヴァイシエーシカ学派の実在論

草柳 綾子 空海の思想とその著作「即身成仏義」からみる空海
の思想

小松香保吏 胡蝶の夢・極楽寺忍性と千服茶臼

奥富 玲子 ヒンドゥー教における業・輪廻思想

小出 啓督 選択集第三章、八章にみる法然の衆生救済の心と法
然の菩提心について

遠藤 俊哉 「鬼」の原像と日本における「鬼」

真柄 俊郎 現代インドにおける生命倫理——功利主義と徳倫理
学の観点から

中嶋 陽平 一遍上人の播州法語集における名号観

伊藤 瑠里 『摧邪輪』にみる明恵の思想と菩提心観と念仏観を
中心として

山本万里央 シク教について

下重 康子 ラーマクリシュナの福祉観——インドにおける宗教
的社会保障の可能性

鈴木美耶子 「ラ・バヤデル」と「シャクンタラー姫」——サン
スクリット劇のバリエーションにおける考察

亀谷 法世 白隠禅師の禅の実践と内観法を中心として

田中 庸介 初期仏教における悪趣の資料集

会澤 健裕 最澄『法華秀句』の一乗観——「三一権実論争」に
おける思想の確立

加藤 由香 ヒンドゥー教における女神の位置づけ

（Ⅱ部）

楠木 悠 グプタ王朝期における仏教美術とヒンドゥー教美術

川村 知弘 サンスクリットの指示代名詞の形態に関する一考察
—— $\text{t\bar{a}n}$ 系統と $\text{t\bar{a}n}$ 系統の還元を試み

柴原 美咲 サティール神話——女神の誕生と死

竹田 学 検証・「PCA インドインフラ株ファンド」——投
資金額2000円はどうかのちやうの．．

狩野 久枝 ガーンデーの思想と行動に影響を与えた出来事
——西洋からの影響を中心に

藤岡 哲 『マハーニルヴァーナ・タントラ』研究——第四章を

中心にして

大塚 元 パーシユバタ派のドヴァーラ修行

中川 大輔 パーリ聖典に登場する「式叉摩耶」資料集

清家みどり 近現代ドイツの仏教受容

天野まゆこ 凝然『華嚴法界義鏡』における法界観——第二章弁

釈名字から第四章顯示行相を中心として

狩野 雄太 東洋思想に憧れたビート詩人達——ゲーリー・スナ

イダーを中心として

中川 恵太 『往生要集』および他経典における八大熱地獄の比

較・考察

藤森 晶子 『初会金剛頂経』「金剛界品」灌頂儀礼について

大学院修士論文

オーダム モンゴル語訳『八千頌般若経』の文献学的研究

スフグジルト モンゴル語訳『二万五千頌般若経』の文献学的研

究

中村 正雄 『二万五千頌般若経』に於ける「無名十地」の考察

仙仁 晶 パーリ仏典に表れる動物観

ブラチャッポン Lokappadipakksāra 第七章の研究

東洋學論叢 第33号

(東洋大学文学部紀要 インド哲学科篇 第61集)

平成二十年三月三十日 印刷

平成二十年三月三十日 発行 [非売品]

発行所 東洋大学文学部

東京都文京区白山五―二八―二〇

電話 インド哲学科〇三三五五七三七

印刷 音羽印刷株式会社

東京都新宿区山吹町十五番地

電話 〇三―三二六八―一四四〇

BULLETIN OF ORIENTOLOGY

Bulletin of the Faculty of Letters

Toyo University

NO. 61

March, 2008

Series of

INDIAN PHILOSOPHY

XXXIII

CONTENTS

IBUKI, Atsushi :

A Reconsideration of Life of Huike, the Second Patriarch of Chan (1)

IWAI, Shogo : As a Strong Man Might Extend his Flexed Arm or Flex his

Extended Arm — The Changing Image of the Supernatural Power (68)

HASHIMOTO, Taigen : A Study of the Gorakhnāth's *Bānī* :

Text, Japanese Translation and Notes of *Sabadī* 42-100 (132)

YAMAGUCHI, Shinobu :

Nāmasaṃgītimañjuśrī in the Kathmandu Valley (148)

Published by

TOYO UNIVERSITY

Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo